

いまを生きる



朝のあいさつから始まる わたしたちの学校づくり



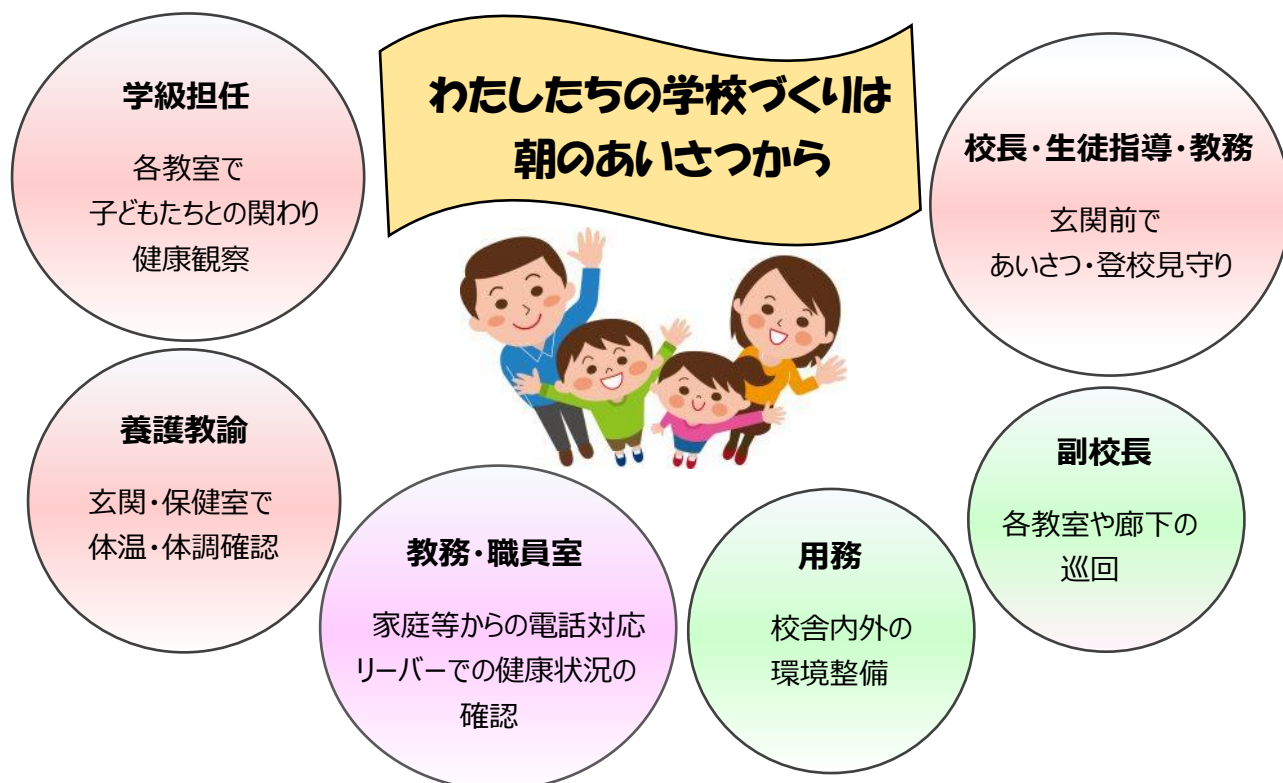
附属小学校の学校づくりの基盤として取り組んでいるのが「あいさつ」です。

毎朝7時50分、正面玄関の扉が開くその瞬間を待って、子どもたちが「おはようございます！」と高らかに声を響かせます。扉を開ける先生も笑顔で「おはようございます！」と応えます。校舎内を巡回すると、どの教室を覗いても、子どもたちや先生から「おはようございます！」の聲が交わされています。

中には、自分からあいさつをする子、ひときわ明るい声であいさつをする子、丁寧におじぎをする子、相手と目を合わせてあいさつをしている子……気持ちのよい姿が日々たくさん見られ、感心しています。子どもたちを大いにほめるとともに、それぞれのご家庭であいさつが大事にされていることに感じ入っています。

マスクの下にうかがえる笑顔や優しい声は、元気と思いやりのバロメーター。朝のあいさつを交わしながらお互いの元気を確かめ、励まし合って、全校みんなでよい1日をつくろうと意欲を高めています。

また、朝の時間帯に、私たち教職員は、あいさつを交わしながら下の図のようにそれぞれの役割を持って動いています。チームとして連携・協力して子どもたちを見守るとともに、安心して安全な学校づくりに努めています。



来週5月14日(土)の運動会が近づいてきました。保護者の皆様には、日々、水筒の用意や補充、体操服の着替え等、様々な面でご支援いただきありがとうございます。感染対策を継続して行い、万全を期して実施したいと存じますので、毎朝のお子様の体温測定・健康観察とリーバーへの報告を、引き続きよろしくお願ひします。

(副校長 楠見 丹生子)